

令和2年度 学校経営計画

大田区立石川台中学校
校長 村上 昭夫

学校には、感動がある！

I はじめに

「これを知る者はこれを好む者に如かず。これを好む者はこれを楽しむ者に如かず。」（「論語」より）、そして「これを楽しむ者はこれに感動する者に如かず。」 学校には感動がある。石川台中学校には感動がある。その感動体験が「これからの社会に貢献する人間性豊かで品格あるたくましい人」として活躍する力が身に付く原動力となる。生徒には、物事をやりきった先にある感動を体験させたい。学校は、生徒が自立した人間として生きるために必要な知識や技術、思考力、判断力、表現力や人間関係づくりの基礎及び「生きる力」を身に付けさせ、知・徳・体の調和のとれた人間の育成を図ることが求められる。そのために私たちは、保護者や地域社会の理解や協力を得ながら、「社会に開かれた教育課程」により、意図的・計画的に組織的な教育活動を展開していく。

令和2年度は、新しい学習指導要領による教育活動が実施されている「総合的な学習の時間」、「特別活動」については効果的な実施を進める。「特別の教科道徳」においては研修を深め新しい学習指導要領による実施を行う。各教科においては、新しい学習指導要領の内容を見据え、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力、そして読解力等を育くみ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を目指していく。その中で、本年度、来年度は「読解力の向上」を図る教育活動について研究し実践する。

組織においては、「経営支援部」を継続設置し、教員分掌間、事務、用務の円滑な連携を図り、教育目標の実現、使命の遂行を図る。

II 本校の教育目標及び使命

教育目標

・思考力に富む生徒を育てる。 ・実行力のある生徒を育てる。 ・情操の豊かな生徒を育てる。を受け、「これからの社会に貢献する人間性豊かで品格あるたくましい人」を育てる。

【使命】

- 1 「これからの社会に貢献する人間性豊かで品格あるたくましい人」を育てる。
- 2 絶えず学び続ける指導力の高い教職員を育成する。

国際都市大田区で生活する生徒が本校卒業後のおよそ80年の人生を、社会とのかかわりの中で自立し連帯し健全に生き、豊かで幸福な人生を歩めるよう質の高い前期中等教育を実践することを使命とする。

また、「教職員を鍛え育てる学校」であることを追求する。一段上の職層の見方・考え方が

できることを目安としたい。生徒は教職員の背中を見ていることは間違いない。私たちは真摯にそのことを受け止め職務に当たることが必要である。

III 学校経営の基本理念

- 1 全校体制で教育的配慮ある生徒優先の教育活動を展開する。
- 2 使命感あふれる教職員として、共に育つ教育活動を展開する。
- 3 温かさが感じられ、感動のある教育活動を展開する。
- 4 生徒も保護者も地域も教職員も明るく楽しくなる学校作りを進める。

IV おおた教育ビジョン

「豊かな人間性をはぐくみ、未来を創る力を育てる」

- ビジョンⅠ 「社会の変化に主体的に対応し、未来を作る力を育成する」
- ビジョンⅡ 「『知・徳・体』の調和のとれた成長を図り、豊かな人間性を涵養する」
- ビジョンⅢ 「意欲にあふれ、個性と可能性を最大限に伸ばす学びの場を創出する」
- ビジョンⅣ 「地域の特色を生かし、学校・家庭・地域が協働して子どもを育てる」

V 目指す学校像

- 1 生徒の学びを大切にした「学ぶ喜びを実感できる学校」
- 2 今日が楽しく明日が待たれ、この学校で生活し学んだことを「誇りに思える学校」
- 3 生徒の成長に向け全教職員が組織的に教育にかかわる「活気のある学校」
- 4 保護者・地域とともに連携し、教育の質を高める「信頼される学校」
- 5 明るく楽しく心揺さぶられ、心底笑える出来事、泣ける出来事があり、下級生が上級生にあこがれの気持ちをもつ「笑顔と笑いと感動のある学校」

VI 育てる生徒像

- 1 思考力・判断力・表現力、知識・技能をバランスよく身に付けている
- 2 学ぶ意欲にあふれ、自ら課題を見つけ、進んで学習する
- 3 夢やあこがれをもち、自ら高い「志」をもって何事にも積極的に挑戦する
- 4 困難なことにくじけず、何事にも根気強く最後までやり遂げる
- 5 人とのかかわりを大切にし、進んで良好なコミュニケーションを図れる
(あいさつ、礼儀、言葉かけ、笑顔、上質な笑い。)
- 6 尊敬の念、思いやりの心を忘れず、人にやさしくできる
- 7 社会を生きていく上で人として大切な素直な心、感謝の心、反省の心をもち、それを表現できる
- 8 規範意識をもって、社会のルールが守れる
- 9 自分の住む町を愛し、地域の行事に進んで参加したり、地域に積極的に貢献したりする
- 10 自分の健康を自分で管理し、基礎的な体力を身につけ、それを伸ばし、自分の体を大切にしている心身ともに健康である
- 11 「仲間」の喜びを自分の喜びとして感じられ、「仲間」の努力を認め自分も努力し、「仲間と協力し自分らしさを発揮する人

Ⅶ 本校の現状と課題

生徒は落ち着いた生活を送っている。また、規律ある集団として成長してきている。

学習については、前向きな学習態度及び効果的な授業実施により、学習への意欲が育成され、資質、能力を高められている。しかし、学年によって習熟の差がみられることはある。

本校が計6学級の小規模校であることが、利点として働くことと、よりよい人間関係形成、多様な集団におけるコミュニケーション力の育成について工夫が必要であることの両面があり、後者については工夫し解決していく必要がある。

Ⅷ 令和2年度の目標と方策

★前提として、「令和2年度 教育課程について（届）」により大田区教育委員会に届け出た内容について確実に実施する。

1 学習指導

生徒全員の資質・能力の向上を図る

・調査等の数値目標については、前年度比+5%とする。

- (1) 各教科の基礎的・基本的な学力の向上及び応用的学力の向上をめざし、「大田区学習効果測定」や「児童生徒の学力向上を図るための調査」、「全国学力・学習状況調査」、「全国体力・運動能力調査」の結果を活用する。
- (2) 少人数授業及び補充学習を充実させる。また、主体的・対話的で深い学びに向け指導方法の工夫・改善を図り生徒の資質・能力の向上を図る。
- (3) 「学習カルテ」を活用し、家庭との連携を図るとともに「学習カウンセリング」を継続実施し、生徒の個に応じた学力向上を目指す。
- (4) オリンピック・パラリンピック教育を推進し、国際理解教育や生涯にわたりスポーツに親しむ生徒を育成する。
- (5) 校内OJTによる指導の授業改善を図る。
- (6) 各教科等における具体的な取組
 - ①ICTやミニホワイトボード等を教員及び生徒が効果的に活用した授業を展開し、資質・能力の向上を図る。
 - ②個別化・個性化による学習活動を図り、意欲的・自主的な学習態度を育てる。
 - ③基礎的・基本的な学習の充実を図る。英語・数学では少人数授業を行う。
 - ④語彙や語句などを豊かにし、基礎的な言語能力を高めるために、漢字検定や各教科での言語活動を行う。
 - ⑤読書指導を通して、的確に読み取る能力や進んで読書に親しむ態度を育てるとともに、学校図書館の活性化を図る。
 - ⑥学習面での地域・保護者との連携を深め、地域環境を活用した教育の充実を目指す。
 - ⑦各教科等の学習を通して、ものづくりにかかわる知識や技能の習得を図り、ものづくりへの意欲を高める。
 - ⑧学習指導講師を活用し、放課後や土曜日等に補習を行うことによって学力の向上を目指す。
 - ⑨数学ステップ学習、「東京ベーシック・ドリル」を活用し、チェックシートによる保護者との連携を図るなど、家庭学習の充実を進めていく。

⑩理科では観察・実験等体験的な活動を取り入れた授業の充実を図る。

⑪音楽、美術は合唱コンクール、文化祭等と関連付けた学習を展開して情操教育の充実を図る。

⑫英語カフェを用いコミュニケーション能力の育成・向上のための学習を充実させるとともに、「使える英語」を習得させる教育を推進する。3年生では英語検定を実施する。

⑬新学習指導要領に示す見方や考え方を働かせる授業を工夫し、移行を円滑に進める。

(7) 特別の教科道徳における具体的な取組

考え議論する授業を展開する。B 主として人とのかかわりに関すること（思いやり、感謝、礼儀、友情、信頼、相互理解、寛容）及びよりよい学校生活、集団生活の充実を重点項目とする。道徳教育推進教師を任命し道徳教育推進を図る。

① 他を尊重し、敬愛する態度や思いやる力を育て、心と体の調和のとれた人間の育成を図る。

② 規範意識を高め、正しい判断に基づく行動力と、物事を真剣にねばり強くやりぬく態度の育成を図る。

③ 生命尊重の精神を重視し、いじめや差別を許さず、一人一人の人権を守るために道徳的実践力の育成を図る。

④ 道徳教育推進教師連絡協議会や道徳授業地区公開講座等を活用し、地域や家庭と連携した道徳教育を推進する。

(8) 総合的な学習の時間

「未来を幸せに生きる」を学校テーマとして、ア・多様な他者・人々との関わり イ・人権尊重・社会参画 ウ・コミュニケーション能力の向上 エ・健康・体力の向上 を課題例として体験学習を通して取り組む。

① 課題ごとに個人・グループ学習・全体学習など多様な学習形態を取り入れ、地域の人材活用等を含め指導の充実を図る。

② 課題設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・発表の学習過程により、新たな課題を追究する姿勢を身に付けさせる。

③ 各教科等での学習内容を横断的に位置付けるとともに、行政・関係事業所・施設等との連携を図った学習を行う。

④ 自己の進路について特別活動との連携を図り、学校テーマを踏まえた学習を進める。

(9) 特別活動

特別活動推進担当主幹教諭を任命し以下の推進を図る。

「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」をキーワードとする。

・学級活動において、話し合い活動を重視する。

・縦割り活動を進める。また、縦割り活動は特別活動以外の教育活動においても取り入れていく。

・「キャリア・パスポート」を効果的に活用し、キャリア教育の充実を図る。

① 多様な他者との協働する様々な集団活動の意義等を理解し行動の仕方を身につけるために、異学年の構成による活動を活性化する。

② 学校生活の基盤として、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形

成を図ったり、意思決定をしたりして、いじめのない心の豊かな集団を目指し、学級活動の計画的指導を行う。

③「キャリア・パスポート」を効果的に活用し、キャリア教育の要として自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして自己実現を図ろうとする態度を養う。そのために、集団とのかかわりの中で、責任と自立する態度と能力を育てる。また、生徒会活動の活性化を図り、学校行事を通じ一人一人の生徒の個性を生かすとともに、協力と創造の喜びを体験させる。

④セーフティ教室を通して、生徒自身に「自分の身は自分で守る」という対応能力を身に付けさせる。

2 生徒指導

思いやり、感謝、礼儀、友情、信頼、相互理解、寛容及びよりよい学校生活、集団生活の充実を重点項目とする。

- ・指導計画に基づき、全教職員の共通理解を図るとともに、生徒に基本的な生活習慣を身に付けさせ、学年・学級で相互に連携をとりながら一貫した指導体制のもとで生徒指導にあたる。
- ・学校生活のあらゆる場で、生徒同士の相互理解と協働的な人間関係を育成し、生徒一人一人と教職員の信頼関係の確立に努める。

- ・学校の教育活動の一環として、ガイドラインに則り適切に「部活動」を実施し生徒の育成を図る。

- ・問題行動対応サポートチームの協力を得て、日常の生活の中で問題行動を見逃さず、個に応じた指導を行い、心に訴える指導を通して人間力の向上を図る。

- ・学校の指導の理解を得られるよう、家庭・地域社会・関係諸機関と連携を密にとり、協力を求めていく。

- ・教育相談月間、子どもの心サポート月間、学校生活調査（メンタルヘルスチェック）やハイパーQ U、生徒との言葉のやり取り（デイリーライフ）等を活用して、スクールカウンセラーと連携したケース会議を実施し、教育相談の充実と指導を図る。生徒の悩みや問題の早期発見、早期解決を図り、自殺・いじめや不登校等の未然防止に努め、組織的に対応する。

- ・避難訓練や防犯訓練、学校防災拠点事業、セーフティ教室や薬物乱用防止教室などの活動を通して、安全防犯教育、防災・減災教育の充実を図るとともに危機管理を徹底する。

- ・特別支援教育委員会を充実させ、コーディネータを中心に研修を計画的に推進する。また、学校特別支援員を活用し、指導の充実に努める。

(1) 学校生活における見通し、目標、憧れ、意欲の向上、自己肯定感、よりよい自尊感情の取得等を目指し、3年生～1年生の縦割り活動（異年齢集団による活動）の機会を前年度より増加する。

(2) 全教育活動を通して人権尊重の精神を育み、互いの立場を考えて行動できる心豊かな生徒の育成に努める。

(3) 「規範意識向上プログラム」、「いじめ防止対策学校基本方針」にもとづき全校体制でいじめ問題に取り組む。命の大切さや思いやりの心を育てる教育活動を行う。メンタルヘルスチェック、学校生活調査（メンタルヘルスチェック）、ハイパーQ Uを活用し、

定期的な教育相談を実施し、未然防止及びいじめ問題、不登校問題等、課題の早期解決に努める。 「いじめ問題ゼロ」

(4) 不登校対応の拡大

登校支援コーディネータを任命し、大田区不登校対策事業を十分に活用し、関係機関との連携、内部の組織の拡充などにより、生徒、保護者に寄り添った対応を進める。「新たな不登校ゼロ」「みんな揃って石川台中」

(5) 「おたの子どもポスター」の掲示により、学年・学級経営の充実に努め、一人一人に向き合う教育を実践し、生徒が自ら学び、自ら考えることのできる能力の向上を図る。

(6) 地震等の災害に備え、学校防災活動拠点事業、地域と連携した訓練を推進する。

(7) 特別支援教育について校内支援体制を整え、特別支援教室の活用を始め、個に応じた支援を行う。障がい等の有無にかかわらずだれもが相互に支え合う社会の実現に向けた特別支援教育の充実に努める。

(8) ボランティア体験活動の推進

「ガーデンパーティ」、「盆踊り」、「地域防災訓練」、「地域スポーツ祭」を4大ボランティアと位置づけ、全校生徒がいずれかに参加するよう勧めていく。

3 適切な進路指導とキャリア教育

(1) 「キャリア・パスポート」を効果的に活用し、自己理解を深め、主体的に進路を選択し、実現する能力を高めるため、進路指導に関する指導内容や指導方法について校内研修を深め、よりよい進路指導のあり方を探究する。

(2) 自ら生き方を考え多様な可能性の発見に努めさせるために、学年ごとに発達段階に応じた目標を定めて指導する。

(3) 情報の収集と整理に努め、助言と相談を効果的に行うようにする。

(4) 1年次に職業についての学習、2年次に職場体験・上級学校調べ、3年次に上級学校訪問を行い、キャリア教育の視点に立った進路指導を行う。

4 オリンピック・パラリンピック教育及び体育健康教育

(1) オリンピック・パラリンピック実施前年であることを踏まえ、より積極的な教育活動を行っていく。食育の工夫・改善を図る。これまでのオリンピック・パラリンピック教育の成果を生かしていく。

(2) 体育健康教育推進担当教諭を置き、石川台中学校独自の「体力向上プログラム」を策定し実施する。運動に取り組み、体力の向上を図るとともに生活習慣の確立に努め体育・健康に関する教育を推進する。

5 保護者・地域との連携

教育課程におけるカリキュラムマネジメントを円滑に進め、開かれた教育課程を重視し、地域・保護者に広く受け入れられる学校を目指す。

家庭での協力を得て、早寝・早起き・朝ごはんを奨励し、心身ともに健康な生徒の育成を目指す。

保護者アンケート、生徒アンケートを実施し、自己評価結果を公表することにより開かれた学校づくりを目指す。

(1) 夏季休業三者面談を全学年で実施する。家庭等と連携し、学習面、生活面、自殺防止

等、各種調査結果も活用しながら有意義な生活を送れるように面談を進める。

(2) 社会に開かれた教育課程

学校の教育内容の周知及び地域、保護者の教育活動への参加を進める。

(3) 学校支援地域本部（スクールサポート石川台）の協力を得るなどして地域の教育力を活用する。

(4) 土曜日授業公開を行い、開かれた学校づくりを充実させる。保護者アンケートによる授業評価を継続実施する。

(5) 常に保護者への説明責任を意識し、必要な情報を伝達する。

(6) 保護者、地域の協力を得た学校の環境整備や外部指導講師といった多彩な教育活動を展開する。

(7) 保護者、地域の協力も得て小学校への積極的な情報発信を行い、本校の良さをアピールしていく。

(8) 学校支援地域本部（SSI）等の協力を得て部活動の現状維持及び活性化を図る。

6 サービスの基本及び学校事故の防止

サービス事故防止担当主幹教諭を置き、日常的にサービス事故の未然防止に努める。

(1) 教育公務員としての使命を自覚し、サービス規律を厳守して学校教育における信頼の確保に努める。

(2) 「週ごとの指導計画」（週案）を作成し提出する。

(3) 学校教育推進上の課題については、個人で抱え込むことなく、学年・学校組織をもって解決に臨む。

(4) 個人情報を始め諸情報の管理を徹底する。

(5) 自己の健康について十分な管理をする。各教職員はライフワークバランスについて考えを深め、自己実現に向けて取り組んでいく。「大田区立学校に勤務する教育職員の業務量の適切な管理に関する事務取扱要領」により、適切な管理を行う。

(6) 生徒の安全・安心を第一に考え、また、よりよい環境を構築するよう各職が連携して職務を遂行する。

(7) 説明責任、スピード感、校内予算の有効な活用、物品の購入に係る適正な申請と執行、節エネルギーに努める。

(8) 教員、事務、用務、給食他職員相互の理解に努め、明るい職場の中で、共通理解、協働による実践を進める。

(9) 報告（5w2h）・連絡・相談・確認（ほう・れん・そう・か）を意識していく。

(10) 情報の確実な伝達と迅速な対応 課題を発見したらそのままにしない姿勢で取り組む。

(11) 学級内で起こっていることを知る。授業で起こっていることを知る。学年内で起こっていることを知る。学校内で起こっていることを知る。地域で起こっていることを知る。知り得た情報を生かす。

7 人材育成

(1) 校内研修、OJTを通して教職員を育てる。経営支援部がOJT推進を担う。

(2) 教員相互の授業観察を行い、指導や助言、意見交換を進めることにより、授業改善を

図る。

- (3) 本校教職員を講師とした、「必要な教員に必要な内容で必要な時に行える」対象別内容別ミニ研修を適宜行う。

8 視点別の具体的取組

- (1) これからの社会に貢献する、確かな学力と豊かな情操を身に付ける取組

- ① ICTを用いた授業改善と補習・補充教室等の活用により生徒の苦手教科克服を図る。
- ② 生徒の相互の学びあいができるよう作品の展示や発表による表現活動、言語活動を充実させる。
- ③ 文化的活動を大切にされた教育活動を展開し、芸術に親しむ心を育て、豊かな表現力をもった、情操の豊かな生徒の育成に努める。
- ④ 洗足池小学校等との合同研修を通して、地域に根ざした小中一貫教育を進める。
- ⑤ 各家庭と連携した家庭学習と学校支援地域本部の協力により、東工大生を中心としたボランティアによる学習支援を図る。
- ⑥ 長期休業中に「自習室」を開設し、生徒の自主的な学習の取り組みを支援することにより、学力向上を図る。

- (2) これからの社会に貢献する、健康でたくましい心身をもった、よりよい社会の一員となるための取組

- ① 体力向上プログラム及びスーパーアクティブスクール研究の成果を生かし、体力向上の視点に立った健康教育を推進する。
- ② 体育委員による昼休みの計画的な体育施設の活用を図る。(一校一取組の実践)
- ③ 栄養士、養護教諭の指導をもとに食育教育の工夫・改善を図る。

- (3) これからの社会に貢献する、生徒が互いの人権を尊重し、協力や奉仕の心を育み生きる力を付ける取組

- ① 生徒会を中心に、委員会活動やボランティア活動を通して生徒の自主性、創造性を尊重し豊かな心の成長を図る教育を推進する。・健康委員による健康チェック。・校風委員会の毎日の「挨拶運動」。・美化委員会や有志による校舎周辺の清掃活動。
- ② 救命講習会等の体験学習により生命の大切さを学ばせる。
- ③ 地域行事や防災拠点活動訓練への参加を通じてボランティア精神を養い、積極的な社会参画への意識を高める。

9 その他の取り組み

- ・ 学年集会の活動を通して、学校生活の諸問題を考えさせ、集団の一員としての自覚と連帯感の育成を図る。
- ・ 放課後や夏季休業中の登校を利用して、生活面や学習面に関する教育相談を充実する。
- ・ 夏季休業中の学力補充教室の実施、学習指導講師を活用した放課後や土曜日の補習教室により学力の向上を図る。
- ・ 夏のわくわくスクール指導や部活体験、体験授業等を通して小中一貫教育を進めていく。